

英語科目についての全般的説明

総合英語について（必修科目：1、2年次）

1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語 A I / A II（1年次）については、全担当教員が英語母語話者とする。会話力を中心に4技能を習得することを目指しており、その目標の例の一つは英語圏における日常会話である。きめ細かな対応が必要となるため、入学時にプレイズメント・テストを行い、能力別少人数クラス編成を行っている。

総合英語 B I / B II（1年次）は、総合英語 A I / A IIを補完すべく、読解力を中心に4技能をまんべんなく学ぶ。目標の例の一つは英語で発行された新聞などの印刷物を、自助努力をもって理解する能力を獲得することである。

総合英語 C I / C II（2年次）は、総合英語 A I / A IIや B I / B IIにおける学習内容を深め、レベルを高めることを目標としている。具体的な役割は2年次以降に開講されている（一部1年次より）上級英語などへ繋がる科目であり、大学生として必要最低限の英語運用能力を身につけることを目標としている。各学科で開講されている英語科目や英語を使用した科目にも繋がる科目である。

2. 科目の内容

総合英語 A（会話を中心として4技能を学ぶ。作文なども特徴の一つ。）

総合英語 B（読解を中心として4技能を学ぶ。聴解力、作文能力、あるいは発信能力を並行して行うこともある。）

総合英語 C（総合英語 A、Bを発展させた内容。具体的内容は担当教員によりさまざまなものを用意している。）

3. 履修上の注意

- 1) 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。未履修となった場合には、次年次に同一曜日、時限の同一教員による授業を履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず当該教員に事前に相談すること。
- 3) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず当該教員に相談すること。
- 4) 総合英語 A I / A IIについては、入学当初に行われるプレイズメント・テストを必ず受けること。また受けそこねたものは、必ず総合英語 A コーディネーターへ相談すること。
- 6) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

中級英語について（選択科目：1年次以上）

1. 目的および目標

総合英語 A、B、Cと同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。英語が苦手な学生から、総合英語でできない内容を求める学生まで幅広く対応している。多様な授業内容のメニューを用意しており、リメディアル的学習、視聴覚授業、海外語学研修準備講座等を、随時展開している。外国人と日本人教員の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分にあった授業を選択する。

2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、リメディアル的学習、視聴覚授業、海外語学研修準備講座等を、随時展開している。外国人と日本人教員の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

3. 履修上の注意

- 1) 同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語 I を2コマなど）
- 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

上級英語について

（選択科目：2年次以上、条件付で1年次以上。下記参照）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語 A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語 B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語 C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1) 1年次で履修する（履修可能科目は、上級英語 A I、A II、上級英語 B I、B IIのみ）学生のみ TOEIC 500 点のスコア（あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア）が必要である。2年次より履修する学生は、総合英語 A と B の単位を取得済みであることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
 - 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
 - 3) 同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語 A を2コマ、など）
 - 4) 鳳龍賞によるオールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
 - 5) TOEIC スコア（600 点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。
- （注）大学院においても英語（ロング、ラクストン）、言語学特論（村田）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡すること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

対象学科（コース）：全学科 学年：1年次 学期：前期

単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson,
Mike Mackay, Chris O' Sullivan, Gareth
Steele, Andrew Watt, Mason Lampert, Peter
Polmeartagami

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English

(b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions

(c) To practice the writing of English paragraphs and compositions

(d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける

3. 到達目標

1. Placement test
2. Meeting new people, self-introductions.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う。(工学部学修細則第11条2)

Wednesday students will be sorted into classes based on performance in a Placement Test at the beginning of the year.

必ず一年生の間この必修単位を取ってください!!後は専攻で忙しくなるから。Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

- (1) Headway - Pre-Intermediate
- (2) Instructors may use other textbooks approved by the coordinator

8. オフィスアワー

Mondays, 12.00- 2.30pm.
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・

応用化学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1 Welcome to the E-mail Combat Zone
3. "
4. 発表
5. Topic 4 Beckham Is Most Influential Man in the UK
6. "
7. 発表
8. Topic 13 Finding Utility and Respect
9. "
10. 発表
11. Topic 22 How the Moon Was Created
12. "
13. 発表
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 教科書・参考書

教科書：World Outlook (朝日出版社)
Go Overseas! (松柏社)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
応用化学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

4. 授業計画

1. Animals are Moral Beings
2. Animals are Moral Beings
3. Obscenity and the Public Eye
4. Obscenity and the Public Eye
5. Pushing Free Trade
6. Pushing Free Trade
7. Lindows vs. Windows
8. Lindows vs. Windows
9. Female Students Dog-tired
10. Female Students Dog-tired
11. Dad's Lack of Parenting
12. Dad's Lack of Parenting
13. Stopping Spam
14. Stopping Spam
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 試験— 60%
 - (2) 授業での小テスト— 20%
 - (3) 授業での発表やレポート— 20%
- 総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long：Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido)
2. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
総合システム工学科・マテリアル工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

異文化理解、科学、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Thinks... (1)
3. Thinks... (2)
4. Thinks... (3)
5. Locke in Place (1)
6. Locked in Place (2)
7. Locked in Place (3)
8. Review Test 1
9. Why the Mind is in the Head (1)
10. Why the Mind is in the Head (2)
11. Why the Mind is in the Head (3)
12. Why the Mind is in the Head (4)
13. Of Headless Mice... and Men (1)
14. Of Headless Mice... and Men (2)
15. Review Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

- 教科書：PRISM (研究社)
Tactic Listener (金星堂)
- 参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）
Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）

（総合教育棟 4 階：S412）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感じるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようにすることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。ジャンルの最終回には、ライティングにも挑戦する。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 歌詞の英語 I
- 第3回 歌詞の英語 II
- 第4回 歌詞の英語 III
- 第5回 新聞・雑誌の英語 I
- 第6回 新聞・雑誌の英語 II
- 第7回 新聞・雑誌の英語 III
- 第8回 新聞・雑誌の英語 IV
- 第9回 エッセイの英語 I
- 第10回 エッセイの英語 II
- 第11回 エッセイ・ライティング
- 第12回 スピーチ・プレゼンテーション I
- 第13回 スピーチ・プレゼンテーション II
- 第14回 スピーチ・プレゼンテーション III
- 第15回 総評

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 小レポート (40%) 期末レポート (30%)
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 辞書を持参すること。
- 各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行う。十分な評価を得られなかった場合には、メイクアップをすること。
- 自己学習の際には、図書館1階のCD、DVDや英字新聞等を利用すると良い。
- 三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

- プリントを配布する。
- 辞書

8. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：応用化学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

高校までに高めてきた英語の能力を維持し、かつさらに高めるため、様々なトピックの英文を経験することを第一目標とし、その書かれたものをいかに読み解くか、自己の知識・経験を基に考えることを次なる目標とする。

2. キーワード

読解力、メディア・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- 1. オリエンテーション
- 2. 1. Reading, Writing, and Rembrandt /
2. Stop the Pirates!
- 3. 3. English: Cool in School? /
4. Global Gender Bender: Prosperity Affects Men's Personalities More
- 4. 5. What makes a Hero? Nature, Nurture: or Both? /
6. Where is th Limit?
- 5. 7. Annie's Mailbox /
8. Atay Focused on the Events That Define History
- 6. 9. Danger for Sale? /
10. Rakugo no Kotohajime
- 7. 11. Freedom of Expression: NHK Wins, but Must Withstand Political Pressure /
12. Freedom of Speech
- 8. 13. The World after 9/11 /
14. Logical and Efficient, a Nation Opts Not to Marry
- 9. 15. Ainu Officially Declared Indigeneous /
16. Faux Sugar May HInder a Diet More tha They Help
- 10. 17. Making the News /
18. Climate Change Leaves Coral Reefs at Serious Risk
- 11. 19. Big Brother Is Watching You /
20. The Cubicle Bully: Worse Than Sexual Harrassment?
- 12. 21. Conventions and Underlying Stories /
22. The Blamning Great Pyramids of Giza
- 13. 23. Terror Laws 'Eat Away at Privacy /
24. Scientist Warns over Belief in Pseudoscience
- 14. まとめ
- 15. 定期試験

5. 評価方法・基準

評点の満点を100%とし、授業での発言や活動40%、定期試験60%評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必要とし、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- 授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。

7. 教科書・参考書

教科書：Vatious Reading Topics for Enjoying English! (松柏社)

8. オフィスアワー

授業時間前後

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科(コース)：総合システム工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

オバマ大統領誕生後のアメリカはどう変わったか、現代のアメリカが直面した状況について書き下ろしたエッセイを題材とする。Reading Skillsの基礎となる英文読解力を中心に鍛える。パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ、欧米的な論理展開を理解し、全体の流れをつかむことを目指す。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、アメリカ社会理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Lesson 1 Change We Can Believe In
3. Lesson 2 A World of Change
4. Lesson 3 Campus Trends, I
5. Lesson 4 Campus Trends, II
6. Lesson 5 It Pays to Hit the Books
7. Lesson 6 Americans with Disabilities
8. Lesson 7 You Are What You Eat
9. Lesson 8 Anything Good on TV Tonight?
10. Lesson 9 Speaking of Television
11. Lesson 10 Cellphones: Good News, Bad News
12. Lesson 11 Stop the Presses!
13. Lesson 12 Family Matters
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- CNN、ABCニュースを見てアメリカの現状を把握することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Changing America (南雲堂)

参考書：リーダーズ英和辞典(研究社)のに入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科(コース)：建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 毛利 史生

1. 概要

本講義では、現在の科学・技術に関する英文素材を使って、「読み」「聞く」「書く」「話す」の4技能をバランスよく身につけることを目標に掲げる。科学・技術に関する受講者の皆さんの関心が高まることはもちろんのこと、同時に英語の運用能力の基礎が身につくことを期待する。授業で読む英語素材を単に理解するだけにとどまらず、主体的に自分の意見を発信するという態度で受講していただきたい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、ライティング、音読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 ご注文はもう分かっていますよ
3. Unit 2 史上最大の空中戦
4. Unit 3 夢の青いバラ
5. Unit 4 もっと高く、もっと早く!
6. Unit 5 ‘ガン’ ばって肥満治療
7. Unit 6 新装! 街のデジ写真館
8. Unit 7 進め! ヒト型ロボット
9. Unit 8 遺伝子ドーピングで金メダル?
10. Unit 9 地球に快適! 野菜オイルカー
11. Unit 10 ‘ホッ’ と明るいコージェネ・ハウス
12. Unit 11 現実になるSF世界
13. Unit 12 便利は‘e’けどゴミも出る
14. Unit 13 チップでなんでもチェック
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Pectrum (金星堂)

8. オフィスアワー

オフィスアワーはないが、質問等はメール(アドレス：fmohri@fukuoka-u.ac.jp)にて随時受け付ける。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」として「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 4, Garmarjobat
3. Unit 5, America's Game
4. Unit 10, Kenichiro Mogi
5. Unit 12 "Made in Japan"
6. Unit 14 Youth
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館のEnglish Journal等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Reading Crystalline（三修社）

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Living in Space
3. Living in Space
4. Cassini-Huygens Mission and the Mysterious Titan
5. Cassini-Huygens Mission and the Mysterious Titan
6. Basic Biochemistry
7. Basic Biochemistry
8. How does an Airplane fly?
9. How does an Airplane fly?
10. Robots for Space
11. Robots for Space
12. Physics of Roller Coasters
13. Physics of Roller Coasters
14. Apollo Rocket Part I
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表やレポート—20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)
2. Mark D. Stafford: Vital Skills for the TOEIC Test: Listening (Pearson Longman 桐原書店)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

文学やエッセイ、論文など、さまざまな文章を精選したテキストを用いて、多様な英語表現について学習する。多読よりも読みの深度を考慮したリーディングを中心に、適宜他の技能の練習も行ないたい。

2. キーワード

エッセイ、小説、論文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- George Orwell
- Elisabeth Kübler-Ross
- O. Henry
- George Gissing
- Ernest Hemingway
- Rachel Carson
- William Wilkie Collins
- Henry David Thoreau
- William Somerset Maugham
- Arthur Waley
- William Henry Davies
- Winston Churchill
- William James
- Robert Lynd
- Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：葉袋善郎、「名文で養う英語精読力」（研究社）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日4限（14：40～16：00）

（総合教育棟4階：S412）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとまった文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation（1）
- 第3回 Explanation（2）
- 第4回 Explanation（3）
- 第5回 Essay（1）
- 第6回 Essay（2）
- 第7回 Essay（3）
- 第8回 Critiques（1）
- 第9回 Critiques（2）
- 第10回 Critiques（3）
- 第11回 Projects（1）
- 第12回 Projects（2）
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価方法・基準

平常点（30%）発表（30%）小レポート（40%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- 三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- 成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- 自主学習として、図書館のJapan Times や、インターネットで週刊ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- プリントを配布する。

辞書

8. オフィスアワー

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

学生たちに現在求められている自己表現能力を向上させる上で、「オバマ演説集」は内容と技巧を兼ね備えた手本である。アメリカの再生を説く、オバマ大統領の名演説を教材として、リスニング力の強化とパブリック・スピーチの内容理解を演習形式で学んでいく。今後のアメリカが進む方向の理解も促す。

2. キーワード

政治演説、リスニング、リーディング、アメリカ社会理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Keynote Address, 2004 Democratic National Convention: “The Audacity of Hope” Part 1
3. “The Audacity of Hope” Part 2
4. “The Audacity of Hope” Part 3
5. “The Audacity of Hope” Part 4
6. “The Audacity of Hope” Part 5
7. Victory Speech: “Change Has Come to America” Part 1
8. “Change Has Come to America” Part 2
9. The Swearing In of Barack Obama as 44th U.S. President and Inaugural Address Part 1
10. Inaugural Address Part 2
11. Inaugural Address Part 3
12. Inaugural Address Part 4
13. Tokyo Speech (2009年11月14日)
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3分の2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・CNN、ABCニュースを見ることを勧める。特に、オバマ大統領関連のニュースには注目すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Major Speeches of Barack Obama: The Resurrection of America（南雲堂）

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）のに入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 黒木 隆善

1. 概要

本授業では、これからの英語学習につながる難易度の高い英文の読破を目指す。また、科学的な内容の英文を通して、英文の論点の掴み方や英語独特の表現方法を学習し、読解能力、表現力の向上を図る。聞く能力も向上させるため、リスニングも行う。

2. キーワード

論点の掴み方、表現力、リスニング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Talk to the Hand - Language might have evolved from gestures
3. No Place Like Om - Meditation training puts oomph into attention
4. Unstoppable Bot - Armed with self-scrutiny, a mangled robot moves on
5. Mafia Cowbirds - Do they muscle birds that don't play ball?
6. Nice Shot - Hepatitis E vaccine passes critical test
7. Cleaning Treasures - Safer solvents for restoring frescoes
8. Pothole Pals - Ants pave roads for fellow raiders
9. Violent Justice - Adult system fails young offenders
10. Why So Dry? - Ocean temperatures alone don't explain droughts
11. Formula for Panic - Crowd-motion findings may prevent stampedes
12. Low Life - Cold, polar ocean looks surprisingly rich
13. In the Zone - Extrasolar planet with the potential for life
14. Ancient Extract - T. rex fossil yields recognizable protein
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験 60%、提出物 40%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。
- ・難解なテキストのため、十分な復習を必須とする。また、授業には必ず（電子）辞書を持ってくること。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Speaks（最新科学の贈り物）金星堂

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問がある場合には、e-mail (parasitic_gap@yahoo.co.jp) で受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 上村 隆一

1. 概要

理工系学生が各自の専門分野に進むための基本的な知識を習得しながら、論理的な英文の構成・展開方法を学ぶ。その上で、具体的な自然科学分野の英文教材を使いながら、基礎語彙・特有の語法と効果的な読解スキルを身につけることができるよう、例題とエッセイの実例を使った演習を行う。(教科書を用いるオンライン学習とeラーニング教材を用いるオンライン学習を併用したブレンディッド・ラーニング形式を取る。)

2. キーワード

技術英文、パラグラフ・リーディング、構造パターン

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction ? Course overview
2. Reasons/Conclusions
3. Analysis
4. Analysis
5. Controversy
6. Comparison/Contrast
7. Classification
8. Chronological Order
9. Cause & Effect
10. Process Analysis
11. Explanation (Theory)
12. Definition
13. Explanation (Experiment)
14. Graph Analysis
15. 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（50%）および授業時の小テスト（30%）および授業時課題（20%）

試験・テスト平均が60%を越えることを合格基準とし、授業時宿題発表の結果と出席状況を加味して評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

とにかく、教科書の内容について、指示された予習範囲、小テストの対策・準備を怠らないようにすること。ウェブ上のオンライン素材については、授業中に指示するので、できるだけ英文のまま理解できるように努力してもらいたい。

7. 教科書・参考書

授業時に指示する。

8. オフィスアワー

e-mail: uemura@env.kitakyu-u.ac.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

素朴な疑問に答える英文を集めた文化エッセイを読みながら基本的な文法や文化的背景を学んでいく。本文は比較的短い文章で構成されているが、学習者の興味、関心の高い内容のものとなっている。各単元終了ごとに復習テストをして知識を確実なものとする。さらにイギリス英語を学ぶことを通して文化の違いを理解し、視野を広めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解 日英比較 文化的基礎知識 基本的文法力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

01. オリエンテーション
02. Lesson 1 ALPHABET
03. Lesson 2 ANIMALS
04. Lesson 3 EDUCATION
05. Lesson 4 FASHION
06. Lesson 5 RELIGION
07. Lesson 6 FOOD
08. Lesson 7 HEALTH
09. Lesson 8 PROVERBS
10. Lesson 9 SCIENCE
11. Lesson 10 SPORTS
12. Lesson 11 LAUGHTER
13. Lesson 12 GARDENING
14. Lesson 13 HISTORY
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

期末試験（70%）

出席点（10%）

受講態度（20%）

により総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Do you know this? (Asahi Press)

8. オフィスアワー

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 熊谷 美佐子

1. 概要

この授業ではリーディングスキルの向上を目指します。特に基本文法の確認、速読の練習、クリティカルリーディングを意識して総合的な読解スキルを養います。文章の形式と内容の構造について学び、辞書の効果的な使い方を練習し、派生語や連語について学び語彙力をつけていきます。

2. キーワード

概要と具体的情報、パラグラフの構造（トピックセンテンス、サポーティングセンテンス）、導入、本文、纏め派生語、連語。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーションと語彙力チェック
2. Pet Medicine
3. China's Four-Wheel Revolution
4. Lifestyle Coaches
5. Wasabi from Japan
6. Time Out
7. Women Bodyguards
8. Taste and Flavor
9. Cutting Edge Technology
10. Cowboys and Samurai
11. Prison Fashion
12. Aftereffects of War
13. The Art of Making Perfume
14. Living with Reindeer
15. まとめ、語彙力チェック

5. 評価方法・基準

期末試験（40%）、クイズ（40%）、（予習復習を含む）授業への参加（20%）。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・単位は教室外の自習時間を含めているので、十分な予習復習を行うことは原則である。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：「Prism (Blue)」マクミランランゲージハウス

8. オフィスアワー

連絡先：kumagai@shimonoseki-cu.ac.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
応用化学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CDを活用し、英語のリスニングに重点を置き、英語耳を育成する。耳で聞いた英文を読んで内容を確認し、自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Another Kotooshu
3. Unit 2 Brain Trainer
4. Unit 3 World Heritage: Shiretoko
5. Unit 4 Vanishing Tradition
6. Unit 5 Pet Hotels
7. Unit 6 Bird Flu Response
8. Unit 7 Population Decrease
9. Unit 8 A Lifelong Craft
10. Unit 9 Plastic Bottle Lifesaver
11. Unit 10 Moving Cost
12. Unit 11 Can Art
13. Unit 12 Ozawa Wins
14. Unit 13 Canned Tulips
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

評点の満点を100%とし、授業での発言や活動40%、定期試験60%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。

7. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan（金星堂）

8. オフィスアワー

授業時間前後

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

グローバル化の進んだ現代社会においては、英米圏のみならず、世界中の文化に目を向けることが必要である。互いを知り、認め、理解するという真の国際人に求められる基本的態度を育成する。国際理解のツールとしての英語の総合的なスキル向上を目指す。

2. キーワード

英文読解・聴解力、異文化理解、国際理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Orientation/Australia: Flexible School Traditions
2. China: Youth Culture
3. Finland: Perspectives in Learning
4. Germany: Eco-Consciousness
5. Iceland: Global Warming Threat
6. Indonesia: A Comfortable Moment
7. Italy: Historical Sites
8. Korea: Leisure Time
9. Russia: A New Cultural Stream
10. Spain: A New Trend in Culture
11. Tanzania: Cultural Conflict
12. Thailand: The National Symbol
13. The United Kingdom: Ghosts, Fireworks, and Pubs
14. The United States: Security Measures
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習・復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHKのラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：*Around the Globe: New Trends and Old Traditions*（南雲堂）

8. オフィスアワー

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

将来、専門の分野に進んだ際、研究に関連した論文、またインターネットで関連する分野の記事を探すといったことが必要になってくる。日本語で全て行えるに越したことはないが、最新の論文などはどうしても英語で読む必要が出てくる。そういった現状を踏まえて、授業では理工系英語のリーディングを重点的に行い、必要となる情報を英語で確実に見つけ出していく練習を行う。同時に、リスニングの練習もしていく。

2. キーワード

テクニカル・イングリッシュ、リーディング、リスニング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション・Unit 2
2. Unit 1 Safety Rules
3. Unit 3 Product Specifications
4. Unit 4 Instruction Manual
5. Unit 5 Laboratory MAnnual 1: Background
6. Unit 6 Laboratory Manual 2: Procedures
7. Unit 7 Q&A: Facts
8. Unit 8 Science Feature Article
9. Unit 10 Company Website
10. Unit 11 Curriculum Vitae
11. Unit 12 Call for Papers
12. Resistration Form
13. Unit 14 Email
14. Unit 15 Research Paper Abstract
15. まとめ

5. 評価方法・基準

定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：*Essential Genres in SciTech English*（金星堂）

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 中村 幸子

1. 概要

小説、実話、日記、サイエンスリポートなど幅広いジャンルの読み物を読んでいます。テキストの英文は、いずれも実際に英語圏で読まれている生の素材から取られたもので、文の持ち味も、読む手ごたえも、それぞれ違います。中にはかなり難しいものもありますが、苦戦しながらも読み通すことで、必ず実力が付いてきます。

各章毎に、正確な音読と訳読、内容理解の確認のための設問や聴解テスト、語彙に関する小テスト等を行います。

2. キーワード

読解力、語彙力、表現力、聴解力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Unit 1 The Cat Who Liked Potato Soup (1)
2. Unit 2 The Cat Who Liked Potato Soup (2)
3. Unit 3 At War Within (1)
4. Unit 4 At War Within (2)
5. Unit 5 The Girl With The White Flag (1)
6. Unit 6 The Girl With The White Flag (2)
7. Unit 7 Eating Well For Optimum Health (1)
8. Unit 8 Eating Well For Optimum Health (2)
9. Unit 12 Howl's Moving Castle (1)
10. Unit 13 Howl's Moving Castle (2)
11. Unit 14 Unbeaten Tracks In Japan(1)
12. Unit 15 Unbeaten Tracks In Japan (2)
13. Unit 16 Old Possum's Book Of Practical Cats
14. Unit 19 Talented Terrier
15. Unit 22 To Err Is Human (1)

5. 評価方法・基準

原則として、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%の総合点で評価し、総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・予習、課外学習
 1. 初回の講義より、教科書、辞書、ノート必携
 2. 十分な予習が必要
 3. ラジオ、TV、ネット上の学習サイトの積極的な活用を勧める
- ・注意事項
 1. 全体の3分の2以上の出席数がないと、履修資格を失う。遅刻、早退は3回で欠席一回とみなす。
 2. 飲食(チューインガムも含む)、私語、居眠り(ひどい場合は出席扱いしない)、携帯の使用等を禁止する。

7. 教科書・参考書

教科書：Deeply Into Reading 杉本孝子著 南雲堂

8. オフィスアワー

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

英語の基本的な運用能力を高めるために色々な場面を想定して、聞く、話す、読む、書くという英語の総合能力を培うことを目指す。同時に発音の練習に力を入れて、再訓練する。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、情報交換。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Meeting people for the first time.
3. Joining the crowd.
4. I have a favor to ask.
5. You're drunk, Koji.
6. Do men touch each other here?
7. Are you married?
8. So, you want to know about guns?
9. He's cute!
10. What's a stepfather?
11. Many Americans sleep naked!
12. Party tips.
13. Do you sing the National Anthem?
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Tell me why (Sanshusha)

8. オフィスアワー

中級英語 I Intermediate English I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

3. 到達目標

- 1) To improve the listening and speaking ability of students
 - 2) To deepen their understanding of current events in the world
- 主体的な英語学習の態度を育成する
 - 多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. It's absolutely true!
3. Are you a morning person?
4. What's in a name?
5. Career paths
6. On the other hand
7. Corporate spying
8. Teamwork
9. Nice to meet you
10. Australia
11. Take it easy
12. Determination
13. Money matters
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等 3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う
(工学部学修細則第 11 条 2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書 : Language to go - intermediate
(Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will help students to develop their interview skills and group discussion skills. Specifically, students will practice answering questions relating to the student's background, classes, goals, research areas, and ability to discuss a variety of engineering topics. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life.

2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- Week 1 Explaining Japanese Sports and clubs
Week 2 Explaining Japanese Music
Week 3 Explaining Japanese Food
Week 4 Explaining Japanese Handicrafts
Week 5 Explaining Japanese Holidays
Week 6 Explaining Japanese Games
Week 7 Explaining Japanese Cities and Places
Week 8 Explaining Japanese Relaxation Practices
Week 9 Explaining Famous Japanese People
Week 10 Explaining Japanese Superstitions
Week 11 Explaining Japanese Animations
Week 12 Explaining Japanese Arts and Theater
Week 13 Explaining Japanese Etiquette and Customs
Week 14 Explaining Japanese Buildings and Gardens
Week 15 Exam

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner to find out questions about Japanese culture and to explain them. A report of the interview should then be turned in the following week.

7. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.
Robert Long. Perceptia Press, Nagoya.

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00
Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

中級英語 I Intermediate English I

対象学科(コース) : 全学科

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、英字新聞やインターネットを通じた情報収集、さらにはスピーチの実践といった、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1. Don't Drink and Die!
3. Unit 2. Building Up Her Muscles
4. Unit 3. A Costly Dream Comes True
5. Unit 4. Katakana
6. Unit 5. Adult-Brats Test Your Nerves
7. Unit 6. Home Schooling
8. Unit 7. 1000Yen for a Pack of Cigarettes
9. Unit 8. To Dye or Not Dye
10. Unit 9. Convenience That Kills
11. Unit 10. Whaling
12. アウトライン発表会
13. スピーチ・コンテスト 予行演習
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書 : Ready to Start? Developing the Four Skills
(An Intermediate Course) (松柏社)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。
(研究室 : 共通教育棟 S408)

中級英語 I Intermediate English I

対象学科(コース) : 全学科

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違えることを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 スピーチと読解 India
- 第3回 スピーチと議論
- 第4回 スピーチと読解 Thailand
- 第5回 スピーチと議論
- 第6回 スピーチと読解 Vietnam
- 第7回 スピーチと議論
- 第8回 スピーチと読解 Malaysia
- 第9回 スピーチと議論
- 第10回 スピーチと読解 Singapore
- 第11回 スピーチと議論
- 第12回 スピーチと読解 Indonesia
- 第13回 スピーチと議論
- 第14回 スピーチと読解 The Philippines
- 第15回 スピーチと議論

5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 期末課題 (30%)
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

辞書を持参すること。
授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。スピーチについては、毎回のスピーチ指導によって上達を図る。

7. 教科書・参考書

Nobuyuki Homma, Understanding Asia, Cengage Learning
辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー : 研究室前の掲示を参照
- ・研究室 : 総合教育棟 410
- ・連絡先 : hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・HP : <http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/>

上級英語 A I Advanced English A I

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce students to a higher level of competence in the four skills, with special emphasis on Listening and Speaking

2. キーワード

Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

- a) To improve the English of students.
(Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).
 - b) To make students feel more confident about using English for communication.
- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす
 - ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introductions
2. Getting ahead
3. Modern survival
4. Coincidences
5. Friends
6. Small talk
7. True love
8. The daddy of discipline
9. That's funny
10. A perfect weekend
11. Just the job
12. In the media
13. Ready to cook!
14. Revision
15. Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
 - b) do writing exercises on your own
- 60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Upper Intermediate
 参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
 ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A I Advanced English A I

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar The focus is on topics concerning Japanese culture.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. Crazy Fashions the Norm | Paired Interviews |
| 2. Marriage Under the Microscope | Consultations |
| 3. Wireless Japan | Debates |
| 4. My Grandfather's Binbogami | Group Work |
| 5. Review | Review |
| 6. E-Commerce | Surveying |
| 7. Rap and Hip-Hop Music | Paired Interviews |
| 8. Review | Review |
| 9. Children: A Different Breed | Consultations |
| 10. Competitive Sports | Debates |
| 11. Women Managers | Group Work |
| 12. Social Activists | Surveying |
| 13. Review | Review |
| 14. Review | Review |
| 15. Exam | |

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English, by Robert Long. Lulu Press. ISBN 1 -411 6-28039

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00
 Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking（批判的思考）能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 7 割程度、またその延長線上にある presentation に 3 割程度の時間を当てる。

さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

1. 社会ニュース
2. 科学ニュース
3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価方法・基準

- (1) 学科試験・・・20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・60%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 江口 雅子

1. 概要

大学院に進学する学生、国際社会に巣立つ学生を見据えると、海外ニュースを聞き取り、海外事情に精通することは重要である。本授業では、米国三大ネットワークの一つ CBS Evening News 番組を題材として、ニュースの自然な英語を英語で聞き、英語で理解し、リスニング力の一層の向上を目指す。扱うニュースは、2009 年最初のアフリカ系アメリカ人の大統領となったオバマの就任式に向けての厳重な警備についてのトピックをはじめとして、アメリカ経済・環境・社会をカバーした幅広いトピックで構成されている。今後のアメリカが進む方向の理解も促す。

2. キーワード

海外ニュース、リスニング、アメリカ社会理解

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1 Security for Inauguration（消える音(1)）
3. Chapter 2 President's First Day（消える音(2)）
4. Chapter 3 Auto Sales（応答の予測）
5. Chapter 4 Leading by Example（1つになる音）
6. Chapter 5 Behind Wall Street Bonuses（音の短縮）
7. Chapter 7 Giving（つながる音(1)）
8. Chapter 8 Rising Rivers（つながる音(2)）
9. Chapter 9 Commercial Real Estate（無声化する音）
10. Chapter 11 Emergency Room Visits（有声化する音）
11. Chapter 12 Looking Up（弱くなる音）
12. Chapter 13 Selling Gold（音の弱形）
13. Chapter 14 Insurance Scam（音の強形）
14. Chapter 15 Rethinking Retirement（区別しにくい音）
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を 70%、期末試験を 30%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・アメリカ社会、文化に関心を持つ学生、リスニング力を更に向上させたい学生の受講を勧める。
- ・教科書付属のDVDで予習、復習をすること。
- ・授業への積極的参加を求める。
- ・CBS Evening Newsは2006年より、コンテンツの同時オンライン配信を無料で始めている。インターネットで興味のあるニュースを視聴することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：CBS News Flash on DVD 2（成美堂）

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

上級英語 C I Advanced English C I

対象学科 (コース) : 全学科 学年 : 3・4年次
 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Adventure
3. Crime
4. Culture Clash
5. Ecology
6. Freedom
7. Discussion 1
8. Globalisation
9. Horror
10. Language
11. London Life
12. Love
13. Discussion 2
14. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書 : Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)
 参考書 : 新版研究社英和中辞典 (辞書を持たない人に)
 Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14 : 40-16 : 00)
 (総合教育棟 4 階 : 412)

技術英語 I Technical English I

対象学科 (コース) : 全学科 学年 : 3・4年次
 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位
 担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Corrosion	L.A. network	Fluid Mechanics	Struct. Analysis	Elect. resistance
2. Bonding	P-to-P Network	Mechatronics	Seismic Eng.	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams	Elect. Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Net.	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Opt.	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews / Exams				
7. Absorption	Software Eng.	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical chem.	Computer Arch.	Drafting	Fire Protection	Voltage
9. Catalysis	Operating systems	Piping	Geotechnical Eng.	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals/Fitting	Transport Eng.	Microelectronics
11. Chemical reactors	Artificial Intell.	Values	Environmental Eng.	Signal Processing
12. Reviews / Presentations				
13. Reviews / Presentations				
14. Exams				

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen, Perceptia Press
 ISBN# 4-939130-93-2

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00
 Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

総合英語 A II Comprehensive English A II

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson,
Mike Mackay, Chris O' Sullivan, Gareth
Steele, Andrew Watt, Mason Lampert, Peter
Polmeartagami

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- (a) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (c) To practice the writing of English paragraphs and compositions
- (d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures
- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 英語圏での必要最低限の会話能力を身につける

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

- (1) Headway – Pre-Intermediate
- (2) Instructors may use other textbooks approved by the coordinator

8. オフィスアワー

Mondays, 12.00-2.30pm.
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp
(Room 404 General Education Building)

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
応用化学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 5 Undeclared
3. "
4. 発表
5. Topic 12 Urban Outfitters
6. "
7. 発表
8. Topic 20 Love Is in the Air
9. "
10. 発表
11. Topic 21 Women MBAs Lead Way to the Future
12. "
13. 発表
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- 図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べる。

7. 教科書・参考書

教科書：World Outlook (朝日出版社)
Experience an English Program! (松柏社)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
応用化学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy
2. Kazaa and Music Piracy
3. Are We Grown Up Yet ?
4. Are We Grown Up Yet ?
5. Systems is Washing Ph. D Brainpower
6. Systems is Washing Ph. D Brainpower
7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
9. Key Ocean Fish Species Disappearing
10. Key Ocean Fish Species Disappearing
11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
13. Crazy Spoiled Youth
14. Crazy Spoiled Youth
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 試験—60%
- (2) 授業での小テスト—20%
- (3) 授業での発表やレポート—20%

総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long : Reflections on Social and Environmental Issues(Seibido)
2. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414)

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるように授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

文学、異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Art of Loving (1)
3. The Art of Loving (2)
4. The Art of Loving (3)
5. The Science of Love (1)
6. The Science of Love (2)
7. The Science of Love (3)
8. Review Test 1
9. Gender Signals (1)
10. Gender Signals (2)
11. Gender Signals (3)
12. The Gay Side of Nature
13. Herland (1)
14. Herland (2)
15. Review Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：PRISM (研究社)

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14 : 40 ~ 16 : 00)

(総合教育棟 4 階 : S412)

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・
総合システム工学科
学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 1単位
担当教員名 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また、教員が話すショート・ストーリーのリスニング&クエスチョンも行う。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 発表と評価
- 第3回 発表と評価
- 第4回 発表と評価
- 第5回 発表と評価
- 第6回 発表と評価
- 第7回 発表と評価
- 第8回 発表と評価
- 第9回 発表と評価
- 第10回 発表と評価
- 第11回 発表と評価
- 第12回 発表と評価
- 第13回 発表と評価
- 第14回 発表と評価
- 第15回 総評

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 期末試験 (40%)
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・授業で使用するプリントはHPに掲載するので、各自確認すること。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- ・発表の前には必ず準備をすること。時間配分について計画を立て、本文中の疑問点はオフィス・アワーを利用して解決しておく。

7. 教科書・参考書

- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・HP：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学期（コース）：応用化学科
学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 田吹 香子

1. 概要

英語の読解力を高めると共に、パラグラフごとにまとめて内容を理解する能力を養う。自己の意見をビルド・アップしていく素材としての英文を経験し、意見を発展させる力も育成する。

2. キーワード

読解力、論理的思考力、パラグラフ・リーディング、メディア・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- 1. オリエンテーション
- 2. Chapter 1 The American West
- 3. Chapter 2 Race and Class in America
- 4. Chapter 3 Interracial Love and Marriage
- 5. Chapter 4 Religion
- 6. Chapter 5 The Jury system
- 7. Chapter 7 Guns and Media
- 8. Chapter 8 Heroes: Legends and Lies
- 9. Chapter 9 War and Media: The First Casualty
- 10. Chapter 10 Sports and the American Way
- 11. Chapter 11 Health and Diet
- 12. Chapter 12 Failing Grades
- 13. Chapter 13 Rock Music and American Values
- 14. Hollywood and 9/11
- 15. 定期試験

5. 評価方法・基準

評点の満点を100%とし、授業での発言や活動40%、定期試験60%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必要とし、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・テキストに随時紹介される映画やドキュメンタリーを個々人で観ておくことが、理解をさらに深めるためには望ましい。

7. 教科書・参考書

教科書：Reading Contemporary America (松柏社)

8. オフィスアワー

授業時間前後

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：総合システム工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

アメリカと日本の今後の連携のあり方を考える日米比較に関するエッセイを題材とする。英文読解力を向上させる。パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ、欧米的な論理展開を理解し、全体の流れをつかむことを目指す。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、国際性

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Lesson 1 The First African-American President
3. Lesson 2 From an Eloquent Orator to a Practitioner
4. Lesson 3 Struggles for Freedom and Self-respect
5. Lesson 4 Prospects for the Automobile Industry
6. Lesson 5 An Encounter with Destiny
7. Lesson 6 The Statue of Liberty
8. Lesson 7 Keys to Success
9. Lesson 8 Transformation in New York
10. Lesson 9 A Surprising Exhibition in front of the White House
11. Lesson 10 Lawsuits and Self-justification
12. Lesson 14 The United States Composed of Immigrants
13. Lesson 15 Ways of Succeeding in life
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業の 3分の2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- CNN、ABC、及び日本のニュースを見て、日米関係の現状を把握することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Japan and U.S. Relations for a Better Future
(松柏社)

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：建設社会工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 毛利 史生

1. 概要

本講義では、現在の科学・技術に関する英文素材を使って、「読み」「聞く」「書く」「話す」の4技能をバランスよく身につけることを目標に掲げる。科学・技術に関する受講者の皆さんの関心が高まることはもちろんのこと、同時に英語の運用能力の基礎が身につくことを期待する。授業で読む英語素材を単に理解するだけにとどまらず、主体的に自分の意見を発信するという態度で受講していただきたい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、ライティング、音読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Unit 1 電子的インク
2. Unit 3 地震予報
3. Unit 4 燃料電池
4. Unit 6 暴力的遺伝子
5. Unit 7 ハイテクビル
6. Unit 8 小惑星爆発
7. Unit 10 大西洋暖流コンベヤー
8. Unit 11 絶世の美人
9. Unit 12 模擬飛行訓練装置
10. Unit 13 マンモスの再現
11. Unit 14 エシュロン
12. Unit 15 クモの牧場化
13. Unit 17 マイクロロボット
14. Unit 18 宇宙からのヒッチハイカー
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Cutting Edge in Science（金星堂）

8. オフィスアワー

オフィスアワーはないが、質問等はメール（アドレス：fmohri@fukuoka-u.ac.jp）にて随時受け付ける。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 2. Saving Traditional Food
3. Unit 4. The “Mods” and “Rockers”
4. Unit 7. Who’s Smarter
5. Unit 8. Of Walls and Eggs
6. Unit 11. The Ubiquitous Bow
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- インターネットや図書館のEnglish Journal等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Reading Wizard（金星堂）

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Apollo Rocket Part II
3. Apollo Rocket Part II
4. Global Warming
5. Global Warming
6. Aurora and the Magnetosphere
7. Aurora and the Magnetosphere
8. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
9. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
10. Solar Cells
11. Solar Cells
12. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
13. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
14. Laboratory Instruments
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表やレポート—20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)
2. Mark D. Stafford: Vital Skills for the TOEIC Test: Listening(Pearson Longman 桐原書店)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

現代文化を読み解くためのキーワードを学ぶためのテキストを選んだ。現在起こっているさまざまな問題の背後に隠れている考えや歴史について概観することで、英語圏文化のよりよい理解につながる授業である。

2. キーワード

カルチュラル・スタディーズ、多文化、異文化、国際理解、ジェンダー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

1. Culture (1)
2. Culture (2)
3. Communications (1)
4. Communications (2)
5. Multicultural Understanding (1)
6. Multicultural Understanding (2)
7. Sex and Gender (1)
8. Sex and Gender (2)
9. English Language in Culture (1)
10. English Language in Culture (2)
11. Cosmopolitan London
12. Ethnic Problem -- Asian Americans (1)
13. Ethnic Problem -- Asian Americans (2)
14. Ethnic Problem -- Asian Americans (3)
15. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：安藤勝夫他、『カルチュラル・スタディーズ』（英宝社）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4限（14：40～16：00）

（総合教育棟 4階：S412）

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとまった文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation (1)
- 第3回 Explanation (2)
- 第4回 Explanation (3)
- 第5回 Essay (1)
- 第6回 Essay (2)
- 第7回 Essay (3)
- 第8回 Critiques (1)
- 第9回 Critiques (2)
- 第10回 Critiques (3)
- 第11回 Projects (1)
- 第12回 Projects (2)
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- 成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- 自主学習として、図書館のJapan Times や、インターネットで週刊ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- プリントを配布する。

• 辞書

8. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

• 研究室：総合教育棟 410

• 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

• H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

カンヌ国際広告祭受賞のTVコマーシャルを教材として、生きたスピード感のある口語的表現を学び、リスニング能力の一層の向上を目指す。コマーシャルの背景の読解に関しては、速読を促し、現代社会における大量の情報を処理できる能力も養う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リスニング、速読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Meijer - Higher Standards, Lower Prices
3. Unit 2 This Calls for a Bud Light
4. Unit 3 Anti-Discrimination Campaign
5. Unit 4 McDonald's - King of Fast-Food Restaurants
6. Unit 5 Relax, it's FedEx.
7. Unit 6 BMW - A Car beyond Reason
8. Unit 7 Banking for the Filthy Rich
9. Unit 8 Learning Languages
10. Unit 9 Pepsi - Ask for More
11. Unit 10 United Nations Development Programme
12. Unit 11 Disney - Magic Happens
13. Unit 12 Coca-Cola - For Everyone
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3分の2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、充分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・スピードのある英語に慣れるため、気に入った英語ドラマや映画を視聴したり、興味のある英語ニュースを見ることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：English in 30 Seconds - Award-Winning TV Commercials from Cannes Lions (南雲堂)

参考書：リーダーズ英和辞典(研究社)の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。Longman Dictionary of English Language and Culture(文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き)

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。
メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 上村 隆一

1. 概要

高度情報化社会で必要とされる技術系の英文理解につながる読解スキル習得を目指した演習を行う。英文のパラグラフで用いられる主要な構造パターンに着目し、特徴的な論理展開を学習する。1つの構造パターンに対して複数の教材ユニットを用意しており、実用的な読解能力を身につけやすいよう工夫してある。教科書で扱う素材は、情報科学や技術系専門雑誌から得られた知識を基に書き下ろされたもので、語彙レベルも難解になりすぎないよう配慮している。(教科書を用いるオフライン学習とeラーニング教材を用いるオンライン学習を併用したブレンディッド・ラーニング形式を取る。)

2. キーワード

技術英文、パラグラフ・リーディング、構造パターン

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction: Course overview
2. The Uncanny Valley
3. Biotope
4. Church of the Light
5. Energy-efficient Housing
6. Universal Design
7. Living with Robots
8. Still Evolving After All These Tears
9. Choosing and Protecting Passwords
10. Linux
11. Stein Cells? A Miracle Cure?
12. Earth Batteries
13. Predicting Intentions
14. Urban Heat Islands
15. 試験

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

とにかく、教科書の内容について、指示された予習範囲、小テストの対策・準備を怠らないようにすること。ウェブ上のオンライン素材については、授業中に指示するので、できるだけ英文のまま理解できるように努力してもらいたい。

7. 教科書・参考書

教科書：K.Hitomi,H.Yoshida and E.Yubune: Paragraph Reading: 21 World-Changing Innovations 改訂版(南雲堂、2009) *変更の可能性もあり。

8. オフィスアワー

e-mail: uemura@env.kitakyu-u.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

日本語と英語を対照しながら基本的な文法や文化的背景を学んでいく。本文は比較的短い文章で構成された文化エッセイであり、文化的基礎知識を学ぶには適切なものとなっている。各単元終了ごとに復習テストをして知識を確実なものとする。

2. キーワード

異文化理解 日英比較 文化的基礎知識 基本的文法力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

01. オリエンテーション
02. Language
03. Food
04. Education
05. Fashion
06. Superstition
07. Animals
08. Health
09. Proverbs
10. Science
11. Sports
12. Religion
13. Laughter
14. History
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

期末試験 (70%)

出席点 (10%)

受講態度 (20%)

により総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Eye-Opening Facts (Asahi Press)

8. オフィスアワー

メールアドレス

yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 熊谷 美佐子

1. 概要

この授業ではリーディング（読解）に重点をおきながらリスニング力（聴解）の向上も目指します。ニュースを聞き、内容確認の後、同じような内容をテキストを読んで行きます。内容は多岐にわたり、関連情報 URL から該当する答えを検索する課題があります。たくさん読み、聞いて、語彙や連語・イディオマティックな表現を学習し、（比較的ゆっくりではあるが）ナチュラルスピードの音声特徴に慣れる練習をします。

2. キーワード

語彙、慣用表現、連語、リズムとイントネーション、音の変化（脱落、同化など）

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーションと語彙力チェック
2. Bill Gates
3. Elections on Tuesdays
4. Studying in US
5. Louis Armstrong
6. Fallingwater
7. Football
8. Family Planning Policy
9. America's Most Wanted
10. Dormitory Living
11. Harvard University
12. GeekCorps
13. Kwanzaa
14. 補助プリント
15. 纏め、語彙力チェック

5. 評価方法・基準

期末試験 (40%)、クイズ (40%)、(予習復習を含む) 授業への参加 (20%)。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・単位は教室外の自習時間を含めているので、十分な予習復習を行うことは原則である。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：「オンラインで学ぶVOAライフ系総合英語」松柏社

8. オフィスアワー

連絡先：kumagai@shimonoseki-cu.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CDを活用し、英語のリスニングに重点を置き、英語耳を育成する。耳で聞いた英文を読んで内容を確認し、自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1 Mothers, Single by Choice
3. Chapter 2 Fragrance by Design
4. Chapter 3 Fashionably Green
5. Chapter 4 Super Dog
6. Chapter 5 Inventive New Toys
7. Chapter 7 Relaxing with Yoga
8. Chapter 8 Good Trash
9. Chapter 9 Pet Rescue
10. Chapter10 Saving Art from the Big Spenders
11. Chapter 11 Tasty Business
12. Chapter 12 Musical Impact
13. Chapter 13 Flea Market, Blooklyn Style
14. Fighting Global Warming
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

評点の満点を100%とし、授業での発言や活動40%、定期試験60%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。

7. 教科書・参考書

教科書：New York Streets（金星堂）

8. オフィスアワー

授業時間前後

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

主に環境や健康問題に関する、世界各地から発信されたニュース英文をテキストにし、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」の4技能を総合的に培う。同時に、世界各地に発生している環境・健康問題を理解し、国際的な視野を備えさせる。

2. キーワード

英文読解力、英作文能力、語彙力、構文理解、環境・健康問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Orientation/Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them
2. "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source
3. Offices Use Ice to Cool Down and Save Power
4. Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's
5. Egyptians Look to Desert for Hot Residential Property
6. College Students Feel Better after Screaming Together
7. Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers
8. Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales
9. Global Warming Claiming Next Victim: Andes Water
10. Aborigines Still Rely on Bush Medicines for Remedies
11. African Farmers Seek Ways to Survive Droughts
12. Study: Fruity Cocktails May Be Good for Health
13. Rising Seas May Force Island Nations to Evacuate
14. Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習・復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHKのラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Healing Our World: Today's Health and Environment News（南雲堂）

8. オフィスアワー

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

Voice of America (VOA) から、特に健康と環境分野を扱っている素材を載せたテキストを扱う。授業では、最新のニュース英語の聞き取りと、使用されている語彙を学び、ニュースから必要な情報を見つけ出し和訳する。授業ではリスニング・ディクテーションを行い、必要な単語を確実に聞きとる練習をする。

2. キーワード

ニュース英語、リスニング、リーディング

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション・1 Beware of D-Ficiency!
2. 2 Cancer: the World's Leading Killer?
3. 3 Vertical Farms to the Rescue
4. 4 No-Smoking City
5. 5 How Weather Can Be a Headache
6. 6 No Water? No Problem!
7. 7 Just a Little Pinprick
8. 8 Wising Up About Wisdom Teeth
9. 9 Cleaner Coal in Australia
10. 10 Keeping Children Safe
11. 11 What is Asian Flush?
12. 12 How Green is My Rooftop?
13. 13 Five Pills in One
14. 14 What Makes a Cow a Cow?
15. 15 Mapping African Soil・まとめ

5. 評価方法・基準

定期試験50%、授業点50%、総合評価で60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Health & Environment from VOA: How Evyeyday Life Affects Global Issues (松柏社)

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 中村 幸子

1. 概要

世界各地からのレポートを聞き、グローバルな時代のさまざまな英語を学びます。各章ごとに重要な語彙の確認、本文の音読、聞き取りやディクテーション、内容確認のための問題、およびストーリーに表れた表現を使った英作文などを行います。付属のCDを使っての補充問題や音読練習など、十分な予習が要求されます。語彙に関する小テストも行います。

2. キーワード

聴解力、語彙力、読解力、表現力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Obama Inauguration Speech
2. Obama Inauguration Speech
3. Californian Ecology
4. Californian Ecology
5. Golden Sewage
6. Golden Sewage
7. Treeless Wonder
8. Treeless Wonder
9. Perfect Female Robot Aiko
10. Perfect Female Robot Aiko
11. Oxford Exam
12. Oxford Exam
13. Going, Going, Gone
14. Going, Going, Gone
15. Review

5. 評価方法・基準

原則として、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%の総合点で評価し、総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 予習、課外学習
 1. 初回の講義より、教科書、辞書、ノート必携
 2. 十分な予習が必要
 3. ラジオ、TV、ネット上の学習サイトの積極的な活用を勧める
- 注意事項
 1. 全体の3分の2以上の出席数がないと、履修資格を失う。遅刻、早退は3回で欠席1回とみなす。
 2. 飲食(チューインガムも含む)、私語、居眠り(ひどい場合は出席扱いしない)、携帯の使用等を禁止する。

7. 教科書・参考書

教科書：English for the Global Age with CNN (11)
関西大学英语教育研究会編著 朝日出版社

8. オフィスアワー

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと自由の国アメリカの文化・社会・生活・習慣を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英米比較。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Terror in the city.
3. Walls.
4. British in the history.
5. The elephant and the mouse.
6. USA History.
7. Names.
8. Rain in the UK.
9. Sport.
10. Universities in the UK.
11. Glamour and Glitz.
12. Baths.
13. 9/11 Part 1: The shock.
14. 9/11 Part 2: The aftermath.
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Class attendance (30%)、Class participation (20%)、Final test (50%)。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：The UK and the USA (Compare and Contrast)
(南雲堂)

8. オフィスアワー

中級英語 II Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

3. 到達目標

- 1) To improve the listening and speaking ability of students
 - 2) To deepen their understanding of current events in the world
- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
 - ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport
11. A star is born. . . or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Intermediate
(Pearson Longman出版)

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in all areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English, particularly on the language in describing a process, aspects about a product (quality / quantity / size / shape), and the purpose of the product or program.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する。
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

	Topic 1	Topic 2	Topic 3
1	Subdisciplines	Areas of Interest	Problems/solutions
2	Gas turbines	Surveying	Euclidean trans.
3	Heat transfer	Distillation	Signal processing
4	Polymers/plastics	Refrigeration	Solar energy
5	Transformers	Lasers	Combustion engine
6	Corrosion	Soil erosion	Bridges
7	Urban design	Pneumatics	Seismic engineering
8	Elect.resistance	Structural design	Process control
9	Image processing	River channel	Electromagnetism
10	Control theory	Conservation-mass	Law-Thermodynamics
11	High Definition TV	Water purification	Hydraulic engineering
12	Environmental	Tunnels	Highways
13	Electric lights	Artificial intell.	Maglev trains
14	Metals	Ceramics	Plastics
15	Exam	Exam	Exam

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

7. 教科書・参考書

Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering

Robert Long. Lulu Press.

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、英字新聞やインターネットを通じた情報収集、さらにはスピーチの実践といった、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Topic 1. Right Brain or Left Brain
3. Topic 2. The Shape of the Face
4. Topic 3. Potatoes
5. Topic 4. Delicacies
6. Topic 5. The Persian New Year
7. Topic 6. Celebrating Fifteen
8. Topic 7. Louis Braille
9. Topic 8. The World's Most Unusual Millionaire
10. Topic 9. Lightning
11. Topic 10. Killer Bees
12. アウトライン発表会
13. スピーチ・コンテスト予行演習
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- 図書館の英字新聞やAVブース、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Weaving It Together : Connectiong Reading and Writing 2 (松柏社)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。

中級英語 II Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違うことを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 スピーチと読解 The Philippines
- 第3回 スピーチと議論
- 第4回 スピーチと読解 China
- 第5回 スピーチと議論
- 第6回 スピーチと読解 Hong Kong
- 第7回 スピーチと議論
- 第8回 スピーチと読解 Korea
- 第9回 スピーチと議論
- 第10回 スピーチと読解 Russia
- 第11回 スピーチと議論
- 第12回 スピーチと読解 Japan
- 第13回 スピーチと議論
- 第14回 スピーチと読解
- 第15回 スピーチと議論

5. 評価方法・基準

平常点（70％）期末課題（30％）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。スピーチについては、毎回のスピーチ指導によって上達を図る。

7. 教科書・参考書

Nobuyuki Homma, Understanding Asia, Cengage Learning.
辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

上級英語 A II Advanced English A II

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce students to a higher level of competence in the four skills, with special emphasis on Listening and Speaking

2. キーワード

Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

- a) To improve the English of students. (Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).
- b) To make students feel more confident about using English for communication.
- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- 16. Introductions
- 17. Contact
- 18. Two cities
- 19. Round the clock
- 20. Person to person
- 21. Positive thinking
- 22. Money talks
- 23. Unlucky for some
- 24. Taxi!
- 25. Major events
- 26. Street life
- 27. Gun crazy
- 28. Difficult situations
- 29. Revision
- 30. Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）
Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Upper Intermediate
参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A II Advanced English A II

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. This course builds on the first year course in which students have had exposure to basic functional English, and sentence-length speech. The focus is on topics from around the world.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす
- 発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1.	Family	Pair work	Asking Questions
2.	Beauty	Pair work	Assertions/disclaimers
3.	Discipline	Pair work	Comments/reflections
4.	Expertise	Surveys	Comparisons/suggestions
5.	Individualism	Surveys	Observations/criticism
6.	Entertainment	Surveys	Preferences/recommendations
7.	Obligation	Group work	Explanation/excuses
8.	Sports	Group work	Comparisons/complaints
9.	Equality	Group work	Opinions/rationalizations
10.	Power	Debates	Claims/conjectures
11.	Dependence	Debates	Descriptions/testimonies
12.	Discipline	Debates	Choices/judgments

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Speeches: Extra Credit Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner about some cultural theme that he or she is interested in, and to provide a report of the interviewee's most interesting answers.

7. 教科書・参考書

Culture Compass Lulu Press ISBN 1 -411 6-4484-0 Robert Long

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00
 Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

上級英語 B II Advanced English B II

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に向上させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking（批判的思考）能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- 必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- 発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 7 割程度、またその延長線上にある presentation に 3 割程度の時間を当てる。

さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

4. 社会ニュース

5. 科学ニュース

6. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

4. 授業計画

(1) 学科試験・・・20%

(2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・60%

(3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

上級英語 B II Advanced English B II

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 江口 雅子

1. 概要

大学院に進学する学生、国際社会に巣立つ学生、留学を目指す学生を見据えると、英語論文、企業での英語報告書等を書く前段階として、英文レポート (academic essay) を書けることは重要である。本授業では、四つのエッセイ・パターン (①意見サポート型、②比較列挙型、③直線的展望型、④多面的展開型) の英文エッセイを読み、その論理構成を使って英文エッセイを書く訓練をさせる。日本語と英語のエッセイの書き方の違いに着目させる。

2. キーワード

アカデミック・エッセイ、ライティング、論理構成

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1 Conclusions / Reasons
3. Chapter 2 Analysis
4. Chapter 3 Theory / Proof
5. Chapter 4 Controversy
6. Chapter 5 Comparison / Contrast
7. Chapter 6 Classification
8. Chapter 7 Instructions
9. Chapter 8 Chronological Order (History)
10. Chapter 9 Cause & Effect
11. Chapter 10 Process
12. Chapter 11 Explanation (New Product)
13. Chapter 12 Definition
14. Chapter 13 Explanation (Statistics)
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・ライティング・スキルを伸ばしたい学生の受講を勧める。
- ・授業内容の十分な理解を得るために予習、復習をすること。
- ・授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・日頃から英文に多く触れ、さまざまな英語表現に着目しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Skills for Better Writing (Revised Edition) (南雲堂)
 参考書：リーダーズ英和辞典 (研究社) の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。
 メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

上級英語 C II Advanced English C II

対象学科（コース）：全学科 学年：3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Money
3. Pet or Product?
4. Poverty
5. Discussion 1
6. Relationships
7. School
8. Stereotypes
9. Discussion 2
10. Success
11. Travel
12. Vanity
13. Discussion 3
14. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。
 (履修細則第11条2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材 (附属図書館蔵) を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)
 参考書：新版研究社英和中辞典 (辞書を持たない人に)
 Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日 4限 (14:40 ~ 16:00)
 (総合教育棟 4階:412)

技術英語Ⅱ Technical English II

対象学科（コース）：全学科

学年：3・4年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Thermodynamics	Program. Paradigm	Aerospace eng.	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	Triodes
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Erosion	Emissions
5. Biochemical Eng.	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Manage.	Hi.-Def. TV
6. Reviews / Exams				
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage water	Trans. lines
10. Polymers	Theories-computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse engineering	Refrigeration	Hazardous Waste	PLC
12. Review				
13. Review				
14. Exam				

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix II, by Robert Long, Lulu Press

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

言葉は伝達の手段であるばかりでなく、思考の手段でもある。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 言葉と思考

人間の思考は、その人間が習得している母（国）語の思考形式に強く影響される。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の思考の枠組みを広げることにより寄与する。また、これは言語一般の理解を深めることに寄与する。

3. 言語と文化

歴史的に見れば、一つの社会の文化的変遷は言語に大きな影響を与えてきた。文化のあり方は言語のうちに明瞭に表れる。逆に、言語はそれを用いる人間の思考を規定することによって、文化の形式をも規定する。

4. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、ともすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は多種多様の文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することをすることは、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、三科目（各一単位）がドイツ語又は中国語での選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語 A I」（一年前期）、「基礎ドイツ語 A II」（一年後期）、「基礎ドイツ語 B」（二年前期または後期）が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語 A I」（一年前期）、「基礎中国語 A II」（一年後期）、「基礎中国語 B」（二年前期または後期）が必修となる。

四月に「基礎ドイツ語 A I」又は「基礎中国語 A I」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更できない。

中国語の履修を希望する学生は、第一回目の「基礎中国語 A I」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後期も同じ教員の担当する「基礎中国語 A II」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

なお、上記は初修外国語の選択必修科目についてのものであり、選択科目については各自自由に選択することができる。

【ドイツ語を学ぶ意義】

(1) 現代社会の基礎創成を担った言語であること

九工大の学生たちは、17世紀ごろから始まった西欧近代合理主義にその源を持つ西欧近代科学技術を学んでいる。この西欧近代合理主義をあるときは育み、あるときは敵対することでその発展に寄与してきたのは、主としてイギリス・ドイツ・フランス、後にはアメリカなどを含む西欧近代国家である。つまり、ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を直接支えてきた言語のひとつである。

(2) 言語としての学習の容易さ

言語は文法から出発して個別の場合に適用して理解できる部分と、語法として覚えてしまわなければならない部分とを持ち合わせているが、ドイツ語学習の初期段階においては、文法で解釈できる部分が多い。公理や定理から出発して個別の場合に敷衍的に適用していく手法は理科系科目の各分野において現れるもので、九工大の学生にとっては受け入れやすいものである。

(3) ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力

(ア) 多元的社会的創造

ドイツは国家成立の経緯から連邦制を取っている。また、現在のドイツは東欧圏や南欧圏、さらにはトルコを含む周辺諸国から多くの移民を受け入れている。連邦制による地方分権も進んでおり、国家として多元的社会的実現している。

EU は国家の連合体であり、その成り立ちからして多元的社会的を目指している。ドイツは EU の中心的な役割を担っており、多元的社会的創造に寄与している。

(イ) 環境先進国としてのドイツ

また、全世界的な関心を集めている環境問題に関しても、森林枯死などの問題を通じて、技術的にも制度的にも世界の最先端を進んでいる。

(ウ) 学術的・文化的影響

ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を担ってきたので、自然科学上の重要な論文には、ドイツ語で書かれたものも数多くある。ドイツ語を学ぶことは、そうした自然科学や、その他の学術的・文化的魅力に直接触れるきっかけも提供してくれるだろう。

(エ) ドイツ語圏諸国

ドイツ語は、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインなどでも公用語として使われている。モーツァルトやシューベルトが生まれ、ベートーベンやブラームスが半生を過ごしたオーストリアは、「音楽の国」として世界に並ぶものがない。オーストリアはまた、フロイトやアドラーを生んだ心理学の国としても知られるし、ハプスブルク時代から続くその多様な文化には、ヨーロッパ文化の縮図を見ることが出来る。政治的にはオーストリアもスイスも永世中立国であり、13世紀まで遡るスイスの連邦制は今も世界のお手本となっている。4つの言語が話されるスイスは、作家トーマス・マンが「ヨーロッパの中のヨーロッパ」と呼んだことでも分かる通り、多文化社会の先進国といえる。

【ドイツ語学習の目的・目標について】

ドイツ語では現在選択必修・選択に分け、次のような講義を開講している。

- 【選択必修】 基礎ドイツ語 A I（前期 1 単位）
 基礎ドイツ語 A II（後期 1 単位）
 基礎ドイツ語 B（前・後期 1 単位）
- 【選択】 選択ドイツ語 A（前・後期 1 単位）
 選択ドイツ語 B I（前期 1 単位）
 選択ドイツ語 B II（後期 1 単位）
 選択ドイツ語 C I（前期 1 単位）
 選択ドイツ語 C II（後期 1 単位）

- ドイツ語を学習する第一の目的は、先に述べた『言葉の役割』に鑑みて、「ドイツ語の学習を通じ、言葉によってもの考える力を養う」ことにある。基礎ドイツ語 A I・A IIにおいては、ドイツ語初級文法の全体的な成り立ち方を論理的に理解・定着させることにより、ドイツ語文法の基礎を習得し、新たな思考の枠組みを作り上げることを目標とする。
 - 基礎ドイツ語 B においては、『母（国）語と外国語』で述べた言語が文化を規定する面に重点をおいて学習することを目的とする。言語が文化ともっとも直接に関わるのは、その表現においてである。基礎ドイツ語 B においては、ドイツ語の表現力を養うことにより、ドイツ語独自の文化形式を理解することが目標となる。文法そのものが対象ではないので、様々な教材を用いる可能性がある。また、ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーション能力の育成、長文読解を通じての表現力の涵養や、もっと直接に独作文による表現力の養成も可能である。なお、前期または後期一単位ではこの目的にはとても足りないため、選択ドイツ語 A も併せて履修することを強く推奨する。選択ドイツ語 A において目的・目標とされることは、基本的には基礎ドイツ語 B の発展である。
 - 選択ドイツ語 B I・B II においては、『ドイツ語を学ぶ意義』で述べた近現代のドイツの重要性と深く関わる部分にスポットを当てて学習することを目的とする。これも教師がどの部分を重視するかによって、選ばれる教材は異なる。ある教師は、直接にドイツの現代の環境問題について述べたテキストを教材に選ぶかもしれない。ある教師は、現代ドイツの環境問題は、ドイツの思想界・文学界が積み上げてきた自然との格闘にその根源を持つと考えて、ゲーテの詩を読むかもしれない。また、ある教師は、ドイツ語の多元的社会的創造を担う側面を重視したり、ドイツ語のコミュニケーション能力をさらに発展させる授業を行うかも知れない。
- いずれにしても、『ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力』を理解することを目標とする。
- 選択ドイツ語 C I・C II においては、『英語以外の言語を学ぶ重要性（真の国際性の養成）』や『ドイツ語を学ぶ意義』で述べられた内容を最も高いレベルにおいて、実現するものとなる。

【履修上の注意点】

- 基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスで受講すること。
- 十分なドイツ語の力を身につけるためには選択ドイツ語 A、選択ドイツ語 B I、B II、選択ドイツ語 C I、C II を積極的に受講することが望ましい。

※再履修に関して

- 再履修に関しても基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスでの受講者を優先する。
- 所定のクラス以外での受講は適正規模の範囲内で認められる。
- 受講希望者数が適正規模を越えた場合には履修を制限することがあるので、掲示に注意すること。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたと、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

- ドイツ語文法の基礎を習得する
- 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は 20 課からなっているが、第 10 課まで進む予定。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成である。授業では 1 回に 1 課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1 回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現の一つを紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験（2 / 3）および、小テストなど平常点（1 / 3）で評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンタリードイツ語の文法と表現」（郁文堂）

独和辞典：第 1 回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後 2 時から午後 6 時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟 3 階 313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期—ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則—一文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割—名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期—ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
—分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2—副文
 - ・動詞の三基本形—過去と現在完了
- (3) 展開期—豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A Iの授業では、上記(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：橋本政義「楽しく学ぶドイツ語 改訂版」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

文字と発音
動詞の現在人称変化
名詞と冠詞
不規則変化動詞・命令形
人称代名詞・前置詞
冠詞類・疑問代名詞
形容詞
分離動詞・zu不定詞・副文
話法の助動詞・未来
動詞の3基本形
現在完了・分詞
再帰動詞・非人称動詞・比較
関係代名詞
受動態
接続法

5. 評価の方法

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：楽しく学ぶドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

{0} 発音 Stufe 1

{1} 動詞の現在人称変化（1）／たずね方／2人称のSieとdu
発音 Stufe 2{2} 名詞の性と冠詞／seinとhaben／Ihrとmein／定形第2位
／否定の語nicht{3} 名詞の格／定冠詞と不定冠詞の格変化／男性弱変化名詞／
名詞の複数形／否定冠詞kein

{4} 動詞の現在人称変化（2）／前置詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が
口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3
回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60
点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に
必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全
に言いきれぬまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕大谷弘道：新・問いかけるドイツ語 改訂版（三修
社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

第1回～第2回 つづり字の読み方と発音 挨拶をする

第3回～第4回 動詞の人称変化、文の作り方 知り合いにな
る

第5回～第6回 文法上の性と格 食べ物の注文をする

第7回～第8回 冠詞類 買い物の相談をする

第9回～第10回 不規則変化動詞、命令形 食事の相談をする

第11回～第12回 前置詞の格支配 どこに行くか尋ねる

第13回～第14回 複数形 市場で果物などを買う

第15回 前期のまとめ

（文法の補足、定期試験等を含む）

5. 評価の方法

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60
点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に
必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全
に言いきれぬまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕「新生ドイツ文法」V5 在間進 朝日出版社

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

- 文字と発音
- 動詞の現在人称変化
- 名詞と冠詞
- 不規則変化動詞・命令形
- 人称代名詞・前置詞
- 冠詞類・疑問代名詞
- 形容詞
- 分離動詞・zu不定詞・副文
- 語法の助動詞・未来
- 動詞の3基本形
- 現在完了・分詞
- 再帰動詞・非人称動詞・比較
- 関係代名詞
- 受動態
- 接続法

5. 評価の方法

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：楽しく学ぶドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟 405 に掲示）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A Iの授業では、上記の(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：大岩信太郎編「純・初級ドイツ文法（新正書法版）」（同学社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科(コース)：応用化学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：保阪良子「改訂版・ドイツ文法ガイド A-Z」(同学社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科(コース)：応用化学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

発音

動詞の現在人称変化(1)

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化(2)

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価の方法

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ(三修社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価の方法

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、第10課まで進む予定。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成である。授業では1回に1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現の一つを紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンタリードイツ語の文法と表現」（郁文堂）

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科(コース)：総合システム工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、第10課まで進む予定。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成である。授業では1回に1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンテードイツ語の文法と表現」(郁文堂)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

対象学科(コース)：機械知能工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、前期に第10課まで進む予定なので、第11課から始める。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成になっている。授業では1回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンテードイツ語の文法と表現」(郁文堂)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：機械知能工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A IIの授業では、上記(2)、(3)の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：橋本政義「楽しく学ぶドイツ語 改訂版」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

- 文字と発音
- 動詞の現在人称変化
- 名詞と冠詞
- 不規則変化動詞・命令形
- 人称代名詞・前置詞
- 冠詞類・疑問代名詞
- 形容詞
- 分離動詞・zu不定詞・副文
- 話法の助動詞・未来
- 動詞の3基本形
- 現在完了・分詞
- 再帰動詞・非人称動詞・比較
- 関係代名詞
- 受動態
- 接続法

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：楽しく学ぶドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：建設社会工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

- {5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化
- {6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化
- {7} 語法の助動詞／分離動詞／副文（定形後置）
- {8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞
- {9} 現在完了／語法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いきれぬまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕大谷弘道：新・問いかけるドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

- 第1回～第2回 形容詞の格変化、人称代名詞 空腹などを訴える
- 第3回～第4回 語法の助動詞、未来形 外出に誘う
- 第5回～第6回 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞 駅で列車の発時刻などを尋ねる
- 第7回～第8回 ZU不定詞 相談にのってくれるように頼む 比較表現 物事を比べる
- 第9回～第10回 三基本形、過去人称変化、接続詞 ぶつぶつ文句を言う
- 第11回～第12回 現在完了形、過去完了形 何をしたかを尋ねる
- 第13回～第14回 受動形 招待される 関係文 休暇の計画を立てる
- 第15回 後期のまとめ

（文法の補足、定期試験等を含む）

5. 評価の方法

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いきれぬまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕「新生ドイツ文法」V5 在間進 朝日出版社

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

- 文字と発音
- 動詞の現在人称変化
- 名詞と冠詞
- 不規則変化動詞・命令形
- 人称代名詞・前置詞
- 冠詞類・疑問代名詞
- 形容詞
- 分離動詞・zu不定詞・副文
- 語法の助動詞・未来
- 動詞の3基本形
- 現在完了・分詞
- 再帰動詞・非人称動詞・比較
- 関係代名詞
- 受動態
- 接続法

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：楽しく学ぶドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟 405 に掲示）

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A IIの授業では、上記(2)、(3)の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：大岩信太郎編「純・初級ドイツ文法（新正書法版）」（同学社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記(2)、(3)の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：保阪良子「改訂版・ドイツ文法ガイドA-Z」(同学社)
参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語A I」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、前期に第10課まで進む予定なので、第11課から始める。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成になっている。授業では1回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンテードイツ語の文法と表現」（郁文堂）

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：総合システム工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語AⅠ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、前期に第10課まで進む予定なので、第11課から始める。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成になっている。授業では1回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンテードイツ語の文法と表現」（郁文堂）

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「ドイツ名作の旅」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 第1回 導入 アルファベット・発音練習
- 第2回 Lektion 1 動詞の人称変化
- 第3回 Lektion 2 //
- 第4回 Lektion 3 語順
- 第5回 Lektion 3 副文・接続詞
- 第6回 Lektion 4 前置詞
- 第7回 Lektion 5 //
- 第8回 Lektion 5 不規則動詞
- 第9回 Lektion 6 冠詞類の格変化
- 第10回 Lektion 6 //
- 第11回 Lektion 7 形容詞の格変化
- 第12回 Lektion 7 //
- 第13回 Lektion 8 再帰代名詞
- 第14回 Lektion 9 分離動詞
- 第15回 (試験)

5. 評価の方法

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『身につくドイツ文法 Vers.2』
(Deutsche Grammatik)
- 【著者名】前田良三 他 著
- 【出版社】郁文堂
- 【価格】2400円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 10 語法の助動詞
- 第2回 Lektion 10 //
- 第3回 Lektion 1 過去形
- 第4回 Lektion 1 現在完了形
- 第5回 Lektion 1 //
- 第6回 Lektion 12 受動態
- 第7回 Lektion 13 比較
- 第8回 Lektion 13 //
- 第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
- 第10回 Lektion 14 //
- 第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
- 第12回 Lektion 15 //
- 第13回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第14回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第15回 (試験)

5. 評価の方法

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『おもしろドイツ！ - 異文化への招待』
(Einladung zur deutschen Kultur)
- 【著者名】斉藤祐史 他 著
- 【出版社】郁文堂
- 【価格】2500円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	語法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 1	過去形
第4回	Lektion 1	現在完了形
第5回	Lektion 1	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	(試験)	

5. 評価の方法

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『それ行け、ドイツ語！』(Vorwärts, Deutsch!)

【著者名】櫻井麻美 他 著

【出版社】第三書房

【価格】2500円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
 同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：建設社会工学科
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なもの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語AⅠ」「基礎ドイツ語AⅡ」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置付け

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書はCD付きで、10課からなっており、1課は6頁からなっている。文法の復習、練習、会話文、読み物がバランスよく配置されているので、教科書に沿って授業を行う。1回の授業で4頁ずつ進む予定。

5. 評価の方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。（中間試験を行う可能性もある。）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習の際は正しく発音する練習をし、意味を調べ、練習問題をやってみること。授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：小野寿美子他：「クロイツァング」（朝日出版社）

参考書：一年次の文法の教科書と独和辞典（必須）

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 Elmar Lenhart

1. 概要

Die Studierenden haben ein Jahr Deutschunterricht hinter sich. Sie sollen das Gelernte aus dem ersten Jahr anwenden lernen und auf dem Weg der Sprachvermittlung die deutschsprachige Kultur kennenlernen. Der Unterricht wird sich darauf konzentrieren, allgemeine Informationen zur Landeskunde zu vermitteln und Deutsch als Kommunikationsinstrument vorstellen. Dabei werden auch die wichtigsten Kapitel aus der Grammatik als Leitfaden dienen.

2. キーワード

Landeskunde, Sprachproduktion, Grammatik, Kommunikation

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 1) und
- 2) Imperativ, Wechselpraepositionen, Orientierung und Wegbeschreibung
- 3) und
- 4) Berufe und Tagesablauf, Modalverben und Zeitangaben
- 5) und
- 6) Monate und Tage, Ordinalzahlen
- 7) und
- 8) Perfekt (regelmässige Verben) und Praeteritum
- 9) und
- 10) der Alltag, Perfekt
- 11) und
- 12) Wortschatzuebungen Ernaehrung
- 13) und
- 14) Konjunktionen, Thema Wohnung und Arztbesuch
- 15) Wiederholung und Test

5. 評価の方法

Immanenter Pruefungscharakter (Mitarbeit inklusive Hausuebungen) 40%, Abschlusstest 40%, Zwischentests 20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Es ist unbedingt notwendig das Lehrbuch immer zum Unterricht mitzubringen. Schlafen waehrend des Unterrichts wird als Nicht-anwesend gewertet.

7. 教科書・参考書

Eurolingua 1.2 Teilband 2 des Gesamtbandes 1 Einheiten 9-16, Verlag: Cornelsen, ISBN 978-3-464-21389-6

8. オフィスアワー

elmar_lenhart@yahoo.co.uk

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 Elmar Lenhart

1. 概要

Die Studierenden haben ein Jahr Deutschunterricht hinter sich. Sie sollen das Gelernte aus dem ersten Jahr anwenden lernen und auf dem Weg der Sprachvermittlung die deutschsprachige Kultur kennenlernen. Der Unterricht wird sich darauf konzentrieren, allgemeine Informationen zur Landeskunde zu vermitteln und Deutsch als Kommunikationsinstrument vorstellen. Dabei werden auch die wichtigsten Kapitel aus der Grammatik als Leitfaden dienen.

2. キーワード

Landeskunde, Sprachproduktion, Grammatik, Kommunikation

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 1) und
- 2) Imperativ, Wechselpraepositionen, Orientierung und Wegbeschreibung
- 3) und
- 4) Berufe und Tagesablauf, Modalverben und Zeitangaben
- 5) und
- 6) Monate und Tage, Ordinalzahlen
- 7) und
- 8) Perfekt (regelmässige Verben) und Praeteritum
- 9) und
- 10) der Alltag, Perfekt
- 11) und
- 12) Wortschatzuebungen Ernaehrung
- 13) und
- 14) Konjunktionen, Thema Wohnung und Arztbesuch
- 15) Wiederholung und Test

5. 評価の方法

Immanenter Pruefungscharakter (Mitarbeit inklusive Hausuebungen) 40%, Abschlusstest 40%, Zwischentests 20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Es ist unbedingt notwendig das Lehrbuch immer zum Unterricht mitzubringen. Schlafen waehrend des Unterrichts wird als Nicht-anwesend gewertet.

7. 教科書・参考書

Eurolingua 1.2 Teilband 2 des Gesamtbandes 1 Einheiten 9-16, Verlag: Cornelsen, ISBN 978-3-464-21389-6

8. オフィスアワー

elmar_lenhart@yahoo.co.uk

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する応用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、応用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
 第5回 中間まとめ
 第6回 人を紹介する
 第7回 数字や略語
 第8回 中間まとめ
 第9回 勉強と語学学習
 第10回 様々な国とその言語・人
 第11回 中間まとめ
 第12回 趣味、興味
 第13回 趣味、興味（続き）
 第14回 中間まとめ
 第15回 期末試験（後述）

5. 評価の方法

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書

- 教科書：Szenen 1 neu, (三修社)
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. オフィスアワー

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方見にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語A I」「基礎ドイツ語A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置づけ

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書はCD付きで、10課からなっており、1課は6頁からなっている。文法の復習、練習、会話文、読み物がバランスよく配置されているので、教科書に沿って授業を行う。1回の授業で4頁ずつ進む予定。

5. 評価の方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。（中間試験を行う可能性もある。）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習の際は正しく発音する練習をし、意味を調べ、練習問題をやってみること。授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：小野寿美子他：「クロイツァング」（朝日出版社）
 参考書：一年次の文法の教科書と独和辞典（必須）

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail : imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

- 空港で
- ミュラー家で
- デパートで
- 駅で
- ベルリン動物園
- ペーターの11歳の誕生日
- オペラ鑑賞
- ミュンヘン旅行
- ミュンヘンで
- 病気
- 授業で
- 別れ

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

河合節子他：はじめてのドイツー使えるドイツ語表現（三訂版）（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟 405 に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 10 語法の助動詞
- 第2回 Lektion 10 “
- 第3回 Lektion 1 過去形
- 第4回 Lektion 1 現在完了形
- 第5回 Lektion 1 “
- 第6回 Lektion 12 受動態
- 第7回 Lektion 13 比較
- 第8回 Lektion 13 “
- 第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
- 第10回 Lektion 14 “ まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
- 第12回 Lektion 15 “ まとめ小テスト
- 第13回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第14回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第15回 (試験)

5. 評価の方法

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『ハンブルクの風 - ドイツ語文法読本 -』
(Mit Familie Wagner und Akiko durch Deutschland)
- 【著者名】川嶋正幸 他 著
- 【出版社】朝日出版社
- 【価格】2400円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子工学科・総合システム工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 Elmar Lenhart

1. 概要

Die Studierenden haben ein Jahr Deutschunterricht hinter sich. Sie sollen das Gelernte aus dem ersten Jahr anwenden lernen und auf dem Weg der Sprachvermittlung die deutschsprachige Kultur kennenlernen. Der Unterricht wird sich darauf konzentrieren, allgemeine Informationen zur Landeskunde zu vermitteln und Deutsch als Kommunikationsinstrument vorstellen. Dabei werden auch die wichtigsten Kapitel aus der Grammatik als Leitfaden dienen.

2. キーワード

Landeskunde, Sprachproduktion, Grammatik, Kommunikation

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 1) und
- 2) Imperativ, Wechselpräpositionen, Orientierung und Wegbeschreibung
- 3) und
- 4) Berufe und Tagesablauf, Modalverben und Zeitangaben
- 5) und
- 6) Monate und Tage, Ordinalzahlen
- 7) und
- 8) Perfekt (regelmässige Verben) und Praeteritum
- 9) und
- 10) der Alltag, Perfekt
- 11) und
- 12) Wortschatzübungen Ernährung
- 13) und
- 14) Konjunktionen, Thema Wohnung und Arztbesuch
- 15) Wiederholung und Test

5. 評価の方法

Immanenter Prüfungscharakter (Mitarbeit inklusive Hausübungen) 40%, Abschlusstest 40%, Zwischentests 20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Es ist unbedingt notwendig das Lehrbuch immer zum Unterricht mitzubringen. Schlafen während des Unterrichts wird als Nicht-anwesend gewertet.

7. 教科書・参考書

Eurolingua 1.2 Teilband 2 des Gesamtbandes 1 Einheiten 9-16, Verlag: Cornelsen, ISBN 978-3-464-21389-6

8. オフィスアワー

elmar_lenhart@yahoo.co.uk

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

空港で

ミュラー家で

デパートで

駅で

ベルリン動物園

ペーターの11歳の誕生日

オペラ鑑賞

ミュンヘン旅行

ミュンヘンで

病気

授業で

別れ

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

河合節子他：はじめてのドイツー使えるドイツ語表現（三訂版）（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟 405 に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	語法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 1	過去形
第4回	Lektion 1	現在完了形
第5回	Lektion 1	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第11回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	(試験)	

5. 評価の方法

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『ゲナウ！ コミュニケーションのドイツ語』（Genau!）

【著者名】新倉真矢子 他 著

【出版社】第三書房

【価格】2500円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同書社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なもの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語 A I」「基礎ドイツ語 A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置付け

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書はCD付きで、10課からなっており、1課は6頁からなっている。文法の復習、練習、会話文、読み物がバランスよく配置されているので、教科書に沿って授業を行う。1回の授業で4頁ずつ進む予定。

5. 評価の方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。（中間試験を行う可能性もある。）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習の際は正しく発音する練習をし、意味を調べ、練習問題をやってみること。授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：小野寿美子他：「クロイツァング」（朝日出版社）

参考書：一年次の文法の教科書と独和辞典（必須）

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル工学科・応用化学工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 Elmar Lenhart

1. 概要

Die Studierenden haben ein Jahr Deutschunterricht hinter sich. Sie sollen das Gelernte aus dem ersten Jahr anwenden lernen und auf dem Weg der Sprachvermittlung die deutschsprachige Kultur kennenlernen. Der Unterricht wird sich darauf konzentrieren, allgemeine Informationen zur Landeskunde zu vermitteln und Deutsch als Kommunikationsinstrument vorstellen. Dabei werden auch die wichtigsten Kapitel aus der Grammatik als Leitfaden dienen.

2. キーワード

Landeskunde, Sprachproduktion, Grammatik, Kommunikation

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 1) und
- 2) Imperativ, Wechselpraepositionen, Orientierung und Wegbeschreibung
- 3) und
- 4) Berufe und Tagesablauf, Modalverben und Zeitangaben
- 5) und
- 6) Monate und Tage, Ordinalzahlen
- 7) und
- 8) Perfekt (regelmaessige Verben) und Praeteritum
- 9) und
- 10) der Alltag, Perfekt
- 11) und
- 12) Wortschatzuebungen Ernaehrung
- 13) und
- 14) Konjunktionen, Thema Wohnung und Arztbesuch
- 15) Wiederholung und Test

5. 評価の方法

Immanenter Pruefungscharakter (Mitarbeit inklusive Hausuebungen) 40%, Abschlussstest 40%, Zwischentests 20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Es ist unbedingt notwendig das Lehrbuch immer zum Unterricht mitzubringen. Schlafen waehrend des Unterrichts wird als Nicht-anwesend gewertet.

7. 教科書・参考書

Eurolingua 1.2 Teilband 2 des Gesamtbandes 1 Einheiten 9-16, Verlag: Cornelsen, ISBN 978-3-464-21389-6

8. オフィスアワー

elmar_lenhart@yahoo.co.uk

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：清野智昭「ドイツ語の時間[初級読本インゲとツヨシ]」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：総合システム工学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「時事テーマで学ぶ〔初級ドイツ語読本〕
ロマンチックドイツから福祉・共生・不作為まで」朝日出版社
参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

選択ドイツ語A Elective German A

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

ビデオを参考にしながらドイツ語の文章に慣れ、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。

5. 評価の方法

毎回の課題作成により評価し、60%以上を合格とする。授業への参加度が評価のプラスポイントとなる。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

学生諸君の積極的な授業参加を期待する。

7. 教科書・参考書

教科書：清野智昭「ドイツ語の時間（ビデオ教材 恋するベルリン）DVDつき」（朝日出版社）840/S-21
参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

選択ドイツ語A Elective German A

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為にドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 1
- 第2回 Lektion 2
- 第3回 Lektion 3 名詞の性について
- 第4回 Lektion 4
- 第5回 Lektion 5 再帰代名詞
- 第6回 Lektion 6
- 第7回 Lektion 7 分離動詞
- 第8回 Lektion 7 動詞の過去形・過去分詞形
- 第9回 Lektion 8
- 第10回 Lektion 9
- 第11回 Lektion 10
- 第12回 Lektion 11
- 第13回 Lektion 12 関係詞・受動態
- 第14回 Lektion 12 接続法
- 第15回 (試験)

5. 評価の方法

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『専門コースへのドイツ語文法』

【著者名】井出万秀他著

【出版社】朝日出版社

【価格】2800円

8. オフィスアワー

選択ドイツ語A

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方見にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

基礎ドイツ語A、基礎ドイツ語Bで学んだ知識をもとに、その知識を生きたものとして使いこなすことができるようにする。それを通じてドイツ語圏の文化や社会に出会う。

●授業の位置付け

頭で知っている、というレベルから、自らの技能として身に付ける、というレベルへの発展。つまり、基礎段階の完成、ドイツ語学習の始まりの終わり。

2. キーワード

会話表現、平易な文章の読解、コミュニケーション、文化事情

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

教科書はCD付きで、12課からなっており、各課は4頁からなり、ディアローグ、文法の復習、練習、テキストの4部分で構成されている。教科書に沿って授業を行う。一回で1課進む予定。

5. 評価の方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習の際は正しく発音する練習をし、意味を調べ、練習問題をやってみること。授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：清野智昭著『ドイツ語の時間』（朝日出版社）

845/S-18/2

参考書：一年のときに使った文法の教科書、独和辞典（必須）

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

選択ドイツ語A Elective German A

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Erwin Niederer

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。
単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価の方法

宿題、小テスト・・・25%
授業態度・・・・・・・・25%
学期末試験・・・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

新田春夫他「ふたつの世界のはざままで - やさしい文法とテキスト」 郁文堂

8. オフィスアワー

授業時間の前後

選択ドイツ語A Elective German A

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Erwin Niederer

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。
単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価の方法

宿題、小テスト・・・25%
授業態度・・・・・・・・25%
学期末試験・・・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

新田春夫他「ふたつの世界のはざままで - やさしい文法とテキスト」 郁文堂

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音（1）声調、単母音・複母音
- 第3回 発音（2）鼻母音、子音
- 第4回 発音（3）子音
- 第5回 発音（4）綴りの規則
- 第6回 発音のまとめ（中間試験）
- 第7回 第5課
- 第8回 復習
- 第9回 第6課
- 第10回 復習
- 第11回 第7課
- 第12回 復習
- 第13回 第8課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：しゃべっていいとも 中国語 陳淑梅 劉光赤 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音（1）声調、単母音・複母音
- 第3回 発音（2）鼻母音、子音
- 第4回 発音（3）子音
- 第5回 発音（4）綴りの規則
- 第6回 発音のまとめ（中間試験）
- 第7回 第5課
- 第8回 復習
- 第9回 第6課
- 第10回 復習
- 第11回 第7課
- 第12回 復習
- 第13回 第8課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：しゃべっていいとも 中国語 陳淑梅 劉光赤 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視角から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視角から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第9課
- 第3回 復習
- 第4回 第10課
- 第5回 復習
- 第6回 第11課
- 第7回 復習
- 第8回 第12課
- 第9回 復習
- 第10回 第13課
- 第11回 ポイント
- 第12回 復習
- 第13回 第14課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：しゃべっていいとも 中国語 陳淑梅 劉光赤 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第9課
- 第3回 復習
- 第4回 第10課
- 第5回 復習
- 第6回 第11課
- 第7回 復習
- 第8回 第12課
- 第9回 復習
- 第10回 第13課
- 第11回 ポイント
- 第12回 復習
- 第13回 第14課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：しゃべっていいとも 中国語 陳淑梅 劉光赤 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 1. 中国映画上映
- 2. テキスト第十一課 把 構文
- 3. テキスト第十二課 禁止表現
- 4. テキスト第十三課 的表現
- 5. テキスト第十四課 経験文
- 6. まとめ 復習
- 7. テキスト第十五課 値段の表現①
- 8. テキスト第十五課 値段の表現②
- 9. テキスト第十六課 存現文①
- 10. テキスト第十六課 存現文②
- 11. テキスト第十七課 受身文①
- 12. テキスト第十七課 受身文②
- 13. テキスト第十八課 使役文
- 14. 総合復習
- 15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 1. 中国映画上映
- 2. テキスト第十一課 把 構文
- 3. テキスト第十二課 禁止表現
- 4. テキスト第十三課 的表現
- 5. テキスト第十四課 経験文
- 6. まとめ 復習
- 7. テキスト第十五課 値段の表現①
- 8. テキスト第十五課 値段の表現②
- 9. テキスト第十六課 存現文①
- 10. テキスト第十六課 存現文②
- 11. テキスト第十七課 受身文①
- 12. テキスト第十七課 受身文②
- 13. テキスト第十八課 使役文
- 14. 総合復習
- 15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第12課
- 第3回 復習
- 第4回 第13課
- 第5回 復習
- 第6回 第14課
- 第7回 復習
- 第8回 第15課
- 第9回 復習
- 第10回 中間試験
- 第11回 プリント
- 第12回 プリント
- 第13回 プリント
- 第14回 プリント
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社
820.7/K-1

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第12課
- 第3回 復習
- 第4回 第13課
- 第5回 復習
- 第6回 第14課
- 第7回 復習
- 第8回 第15課
- 第9回 復習
- 第10回 中間試験
- 第11回 プリント
- 第12回 プリント
- 第13回 プリント
- 第14回 プリント
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社
820.7/K-1

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

第1回（全ての授業計画については、第1回の授業時に告知する）

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

テキストは、NHKの中国語会話テキストを使用するので、毎月買い忘れの無いように。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：NHK テレビ テレビで中国語 NHK 出版

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

選択中国語 A Chinese A

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはよい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする
- ②基礎的な文法をマスターする
- ③基本的な会話ができるようになる
- ④中国に対する知識を増やす

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・発音の復習

2. 第1課 介詞①・連体修飾語

3. 第1課 様態補語

4. 第2課 可能①・「すこし」

5. 第2課 介詞②③・時間量

6. 第3課 二重目的語・連動文

7. 第3課 完了

8. まとめ 第1課～第3課

9. 第4課 動作の進行・介詞④

10. 第4課 経験・動量補語

11. 第5課 介詞⑤・結果補語

12. 第5課 状態の持続・場所語

13. 第6課 可能②

14. 第6課 「太～了」・お金

15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の2/3以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第1回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『楽しい中国語コミュニケーション 改訂版』

（高橋良行・村上公一・陸明 同学社）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

選択中国語 B II Chinese B II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、聴き取りの練習を中心に、「ことば」として使うことができるよう繰り返し練習する。まずは中国語を使うことに慣れ、自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする
- ②基礎的な文法をマスターする
- ③基本的な会話ができるようにする
- ④中国に対する知識を増やす

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス
2. 第7課 単純方向補語・「有」
3. 第7課 動詞の重ね型・使役
4. まとめ 第4課～第7課
5. まとめ 閲読
6. 第8課 「些」・「すこし」②
7. 第8課 可能補語
8. 第9課 体温・介詞⑥
9. 第9課 「会～的」
10. 第10課 「まもなく」・「打算」
11. 第10課 「～のとき」・程度の表現
12. まとめ 第8課～第10課
13. まとめ 閲読
14. 総復習
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『楽しい中国語コミュニケーション 改訂版』

（高橋良行・村上公一・陸明著 同学社）

※教科書は前期開講の「選択中国語 A」と同じだが、「B II」だけでも履修可能。

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

ロシア語AⅠ Russian AⅠ

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
- 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
- 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
- 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
- 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
- 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
- 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名
(名詞の単数と複数)
- 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
- 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語
(動詞の人称変化形)
- 第10回 テーマ「第2課②」趣味(名詞の対格)
- 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
- 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話

前学期末試験

5. 評価方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

ロシア語AⅡ Russian AⅡ

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

AⅠに引き続き、ロシア語の文法を学修する。テキストの講義とその応用としての対話練習を行う。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介(名詞の前置格)
- 第2回 テーマ「第3課②」職業(形容詞)
- 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
- 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
- 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活(動詞の過去)
- 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
- 第6回 テーマ「第4課③」訪問(動詞の体)
- 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
- 第8回 テーマ「第5課①」余暇(動詞の未来形)
- 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
- 第10回 テーマ「第5課③」訪問(動詞の命令形)
- 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話

後学期末試験

5. 評価方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

選択韓国（朝鮮）語 A I Elective Korean A I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。韓国語と日本語の語順はよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初級の段階では他の言語と比べても容易であるとはいえないです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきます。

この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

2. キーワード

ハングル、韓国（朝鮮）語、韓国の文化

3. 到達目標

①韓国語の文字と発音の習得、②基礎的な文法の学習、③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・母音 1、2
- ・子音 1、2
- ・終声子音（バッチム） 1、2
- ・発音の仕組み（法則） 1、2
- ・やさしい会話 1、2、3
- ・基本文型 1、2

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する資料や映像の紹介もしていきます。

5. 評価方法・基準

①定期試験、②出席、③宿題及び小テストによる総合評価

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

「楽しく学ぶ」ことがモットーの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題、小テストなどが苦にならない、ヤル気ある学生の受講を望みます。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店

（教科書に関しては、第一回目の授業で紹介します。）

8. オフィスアワー

E-mail : gyelc0926@yahoo.co.jp

選択韓国（朝鮮）語 A II Elective Korean A II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

基本的には前期の「選択韓国（朝鮮）語 A I」の続きとして進めていきます。

授業では、韓国（朝鮮）語の読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。

ハングルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を習得します。

2. キーワード

ハングル、韓国語の発音、韓国の文化

3. 到達目標

①基礎的な文型及び文法の学習、②やさしい日常会話の習得、③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・基本文型 1、2、3
- ・数字 1、2 と時刻の読み方
- ・自己紹介
- ・助詞 1、2、3
- ・楽しい会話 1、2
- ・否定形
- ・過去形
- ・尊敬系とその他

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

5. 評価方法・基準

①定期試験、②出席、③宿題や発表、小テストによる総合評価。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

選択韓国（朝鮮）語 A I 参照。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店

8. オフィスアワー

E-mail : gyelc0926@yahoo.co.jp